―　農林事務所管内の動き　―

1　福岡農林事務所管内

■ 農業

・ＪＡむなかたは、いちごの調製作業の省力化に向け「産地パワーアップ事業」によりパッケージセンターを整備し、規格・量といった実需者からの多様な販売ニーズにも対応した販売を実施。利用農家は、省力化した労力を栽培管理に向け、さらなる品質・収量の向上を目指す。また、「強い農業・担い手づくり総合支援交付金」を活用し、加工用キャベツの貯蔵施設も整備。実需者ニーズにあわせた出荷量の調整を行い、安定的な価格での販売を目指す。

・ＪＡ粕屋の果樹産地改革協議会及びＪＡむなかたの宗像地域果樹産地協議会は、カンキツ生産者の高齢化による栽培面積と生産量の減少に歯止めをかけるため、生産者の経営意向と園地情報を把握したうえで、平成 30 年度から園地流動化を推進。若手生産者への園地集積は令和２年度までに８件、340ａまで拡大。

・ＪＡ糸島は、水田農業の作業効率化・省力化を目的にスマート農業機械の導入に向け、ＲＴＫ※基地局を整備。これにより、糸島市でＧＰＳを活用したスマート農業の実践を開始。

・直売所「福ふくの里」に出荷する農業者と漁業者、地域住民およびＪＡといった関係機関で組織する「福吉地域づくり推進協議会」は、直売所を核とした地域活性化に向け、「中山間地域農業・農村振興支援事業」を活用し、地域食材を活用したメニューを開発。メニューは、直売所併設のレストランで提供を予定。集客力を向上させ、地域農林水産物の販売拡大や出荷者の所得向上を目指す。

・糸島市は、棚田の有する多面的機能の維持増進に向け、棚田地域振興法に基づき、旧福吉村他５地域を指定棚田地域に設定。指定地域では、棚田保全を中心に地域振興を図るため、国の事業を活用し、農業者と地域住民による除草作業や都市と農村の体験交流イベントといった活動に取り組む。

※ＲＴＫ基地局：ＲＴＫとはReal Time Kinematicの略。ＧＰＳで測位した位置情報の精度を向上させるための基準となる施設。

地域のトピック

○花田寛道（はなだひろみち）氏（福津市）が農事功績表彰において緑白綬有功章を受章

・福津市の花田寛道氏が、地域農業に貢献した農業者を表彰する令和２年度農事功績表彰において、緑白綬有功章を受章。

・水稲とブロッコリーを組み合わせた収益性の高い複合経営を実践し、地域のモデルとなる経営を確立したことや、県の稲作経営者協議会会長を務め土地利用型農家の育成に貢献。

緑白綬有功章を受章した花田氏

■ 林業

・那珂川市は、「材質が緻密で色味も良い」と定評のある市産材「那珂川ヒノキ」のブランド化を推進。利用促進を目的に、木材供給者・工務店を中心とする「那珂川市産材活用協議会」を令和２年 10 月に発足。また、12 月には、「家具の町」大川市と地域の森林環境の整備・保全及び地場産業の振興を目的とした協定を締結。今後、「那珂川ヒノキ」を大川市の家具産業界が有する高度な技術で製品化し、公共施設を中心に導入を推進。

・林業経営の集約化を図るには、森林所有者間の境界を明確にすることが必要。この際、現地の正確な位置情報の把握が課題となっているため、林業事業体を対象に RTK-GNSS 測位※を活用した森林境界明確化研修を実施。管内の市町、森林組合を中心に 25 名が参加し、高評価。

・設置後、長期間を経過した治山施設は、施設の機能維持・強化に向けた対策が必要。そのため、２年度新たに、策定された個別施設計画に基づき、治山施設の長寿命化対策に着手。

・県の緑化木推奨樹種であるギンバイカを福岡県水産海洋技術センターに植栽。５月末から６月には白く可憐な花（梅に似ているので銀梅花）が来訪者をもてなす。将来は剪定時の新芽や枝から得られるアロマオイルの活用も検討。

※RTK-GNSS 測位：ＧＰＳなど衛星を用いた測位と、地上に設置した基準局からの位置情報データを組み合わせることによって、数ｃｍ内誤差の測位を実現する技術。

地域のトピック

○福岡市の森林基幹道「早良（さわら）線」が全線開通

・福岡市の森林基幹道「早良線」（総延長 15,257m、幅員 5.0m、利用区域内の森林面積 2,152ha）が平成９年度の着工から 24 年の歳月を経て完成。

・当林道は、「曲渕（まがりぶち）ダム」の上流に位置していることから、地域林業の振興のみならず、森林整備の促進による水源かん養機能の発揮に貢献。

・沿線には「花乱（からん）の滝」や「坊主ヶ滝」といった景勝地もあり、地域住民の利便性向上に加え、観光客の増加による地域活性化にも寄与。

森林基幹道「早良線」

早良線沿いに集材された主伐材

2　朝倉農林事務所管内

■ 農業

・令和２年７月豪雨により、久留米市を中心に４年連続で冠水による農業被害が発生。このため、関係機関が一体となり、久留米市ほか３市１町で農業機械・施設 859 件の再取得や、災害回避施設 236 件の整備、総額９億円の復旧事業を実施。

・管内４つの地域農業振興協議会（ＪＡ、市町村、県といった関係機関で構成）は、新型コロナウイルス感染症の影響で低迷した花きの需要を喚起するため、県の「花き消費促進緊急対策支援」事業を活用し、市町村庁舎や学校、駅といった公共施設 20 か所に切花・鉢花および花壇苗を飾花。花の魅力の発信と花き農家を支援。

・「（株）筑前町ファーマーズマーケットみなみの里」が、「地産地消等優良活動表彰」で農林水産大臣賞を受賞。農商工連携による「筑前クロダマルきな粉」の新商品開発・販売や、新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休校で行き場を失った地場産野菜の活用が高く評価。

・ＪＡ筑前あさくら果樹ＧＡＰ研究会は、農業経営の改善や産地競争力の強化を図るため、福岡県ＧＡＰの団体認証を取得。本県初の複数果樹品目で、横断的な認証取得。

・久留米市の角美紗氏が「農山漁村女性活躍表彰」で経営局長賞を受賞。イチゴ、ブドウを導入した観光果樹園、カフェの開業やＳＮＳを活用したＰＲ戦略が高い評価。

・久留米普及指導センターと施設園芸３法人が、作業の効率化や更なる品質向上を目的に、国の「スマート農業加速化実証プロジェクト」に参加。「生産管理クラウドサービス」、「細霧システムによる防除」、「ホウレンソウの掘取機・調製機」による効率化に向けた取組を実証。

・平成 29 年７月九州北部豪雨で被災した朝倉市の「鎌塚ため池」は、県が代行で改良復旧工事を実施し、２年 12 月に完了。地域住民の豪雨災害に対する不安払しょくにも寄与。

地域のトピック

○ＪＡ筑前あさくら柿部会が増加する荒廃園対策に着手

・耕作放棄されたかきの荒廃園は、平成 29 年７月九州北部豪雨後さらに増加、野生鳥獣の温床ともなり、隣接する生産園への影響が懸念。

・このため、農林事務所、朝倉普及指導センターが、朝倉市や取組主体のＪＡ筑前あさくら柿部会に働きかけ、国の交付金を活用した荒廃園対策を推進。

・この結果、朝倉市宮野地区に樹体伐採の実証園（30a）を設置。園主からは「自分達だけでの作業は困難だったため助かった」との声。部会も「荒廃園発生の事前防止に役立った」と評価。今後、実施体制や手順の検証を行った上で、他の地区に展開する方針。

伐採作業

作業完了後

■ 林業

・九電みらいエナジー（株）が筑前町に建設した「ふくおか木質バイオマス発電所」が、令和２年５月に営業運転を開始。併設された木質チップ工場「グリーンパークＮ＆Ｍ（株）」から 76,000t/年のチップが供給、売電量は約４千万 kWh/年（約 13,000 世帯分）。森林の未利用材が活用される県内初の施設であることから、地域林業の活性化に期待。

・植木生産者で結成された「緑の機能性研究会」では、樹木から精製される香り（アロマ）を特産品とするため、成分の抽出と商品化に取り組む。平成 30 年度から３か年にわたり、材料となるギンバイカやユーカリをはじめとした複数の樹種約１万本を久留米市、朝倉市、小郡市の合計 10 か所に植栽。

・朝倉地区林業推進協議会では、災害で被災した森林の状況把握のため、会員間で利用可能なドローンを導入。ドローンの利用により、踏査が困難な森林や被災地で、高精度な写真撮影が可能。協議会は、会員の利用開始に備え、操作実習を兼ねた研修会を実施。

・平成 29 年７月九州北部豪雨（以下、九州北部豪雨）で被災した林地の復旧工事は、県が災害関連等緊急治山事業により被災年度から着手した 39 か所のうち、35 か所が完成。残る４か所も、３年夏までに完成予定。

・農事組合法人宝珠山きのこ生産組合が「きのこ逸品シリーズ　おつまみアヒージョ」で、県６次化商品コンクールの県議会議長賞を受賞。審査員から、「斬新なアイデア」と高く評価。

地域のトピック

○九州木材市場福岡営業所が営業開始

・九州木材市場（本社：大分県日田市）は、福岡県での原木販売拠点として、朝倉市に福岡営業所を開設。約３万m^2の敷地に、原木選別機やフォークリフトといった機材を導入。

・同市場は、九州北部豪雨災害からの早期復旧を目指す朝倉市の誘致に応じ、令和元年６月に立地協定を締結。２年４月から、原木の集荷を開始。

・営業初年度は、原木２万m^3を超える取扱量を達成。今後は取扱量の拡大を図り、最終目標を年間 10 万m^3とし、販売を行っていく予定。

立地協定の調印式

導入された原木選別機

３　八幡農林事務所管内

■　農業

・県では、樹園地での除草作業の省力化に向け、ＪＡいちじく部会と連携し、岡垣町のいちじく園で無人除草機の実証展示を実施。見学したびわ農家は、無人でも、安全で効率的な除草作業を確認し、無人除草機を導入。除草機は、作業中の音も小さく静かなため夜間の作業も可能で、鳥獣被害の軽減も期待。

・水稲と大麦の種子を生産するＪＡ北九採種部会は、令和元年度までに全会員となる４名の後継者が経営に参画。令和２年度には、新たに農家１名が加入。県やＪＡ、米麦品質改善協会による定期的な現地指導会をはじめ、部会活動を活性化し、より一層の品質向上を目指す。

・北九州市小倉南区のイチゴ観光農園と若松区の野菜加工グループ、中間市のトマト農家が、女性農業者を対象とした県の専門家派遣制度を活用し、加工品の開発やホームページの改良を実施。このうち、野菜加工グループが、若松産野菜を使ったふりかけを商品化。ＪＡ北九かっぱの里若松店で販売を開始。

・県では、消費者や取引業者からの信頼性の向上を目的に、ＧＡＰの取得を推進。北九州市若松区では、ブルーベリー農家が、管内の果樹農家で初めて福岡県ＧＡＰ認証を取得。また、岡垣町では、農業法人が、県の国際水準ＧＡＰレベルアップ支援事業を活用し、トマトやカーリーケールでＪＧＡＰ審査を受け認証を取得予定。両者とも作業者の衛生管理、使用機械や器具点検、商品への異物混入の確認といった必要なリスク管理とその記録を徹底。

地域のトピック

○ 古野靖之（ふるのやすゆき）氏（遠賀町）が麦作共励会において優秀賞を受賞

・遠賀町の古野靖之氏が令和２年度福岡県麦作共励会農家の部において、優秀賞を受賞。

・古野氏は、米・麦・大豆を主体に経営。大麦、小麦の品種の特性に合わせ圃場を選定・団地化、土壌改良資材の散布や徹底した排水対策、播種深度の調整、草種による除草剤の選択といった基本技術を忠実に実践。大麦で管内ＪＡ平均反収の1.4倍、小麦では1.7倍を実現。

・また、経費削減のため地域の生産者と共同で高性能機械の導入や、農地中間管理事業を活用し、計画的に農地を集積。

麦作共励会優秀賞を受賞した古野氏

■ 林業

・県立小倉高等学校は、令和元年度から２年度にかけ、県有施設緑化事業で校内に緑豊かな憩いの場を創設。県推奨緑化木のギンバイカの植栽や、県産ヒノキを使用したベンチの設置を実施。

・北九州市若松区の本村地区では、平成 30 年７月の西日本豪雨災害により、２か所の大規模な山腹崩壊が発生し、通勤や集落間移動の重要なアクセス道に利用されている市道へ土砂が流出。土砂流出や崩壊の拡大防止を図るため、元年度から２年度にかけ、林地荒廃防止事業により、崩壊箇所の復旧や緑化工事を実施。

・北九州地区森林・林業推進協議会は、地域材の需要拡大を図るため、２年 11 月、北九州市若松区で木材・プラスチック再生複合材※を製造する企業の工場見学会を開催。国や市町、森林組合の林業・建築の担当者 18 名が参加。今後、未利用材の活用促進に向け、継続して情報交換を実施。

・県では、「合馬たけのこ」の生産技術継承や後継者の育成・確保をテーマに、２年６月、生産者代表、ＪＡ北九、北九州市と意見交換会を開催。挙げられた課題の解決に向け、支援に取り組む。

・県では、森林経営管理制度の推進及び森林環境譲与税の有効活用を図るため、管内の市町に対する個別打合せや現地検討会を開催。民有林の森林整備促進につながることを期待。

※木材・プラスチック再生複合材：本来は廃棄される木質廃材や間伐材と廃プラスチックを配合成形して製造するリサイクル製品。

地域のトピック

○ 放置竹林の解消と里山林再生に向け、早生樹センダンを植栽

・ 北九州地区森林・林業推進協議会は、放置竹林や伐採跡地を里山林として再生させるため、北九州市林業研究グループと連携し、令和２年度から家具材としての利用が見込まれる早生樹センダンの試験植栽に取り組む。

・ 植栽作業は、３年２月に北九州市小倉南区と八幡西区の２か所で実施。地元小学生も含め 28 名が参加。

・ 今後、数年間は、下草刈りや植栽したセンダンの芽かき作業を継続して実施し、成長への影響を検証しながら、里山林の再生を図る。

林業研究グループによる
スギ伐採跡地への植栽

地元小学生も参加した放置竹林跡地への植栽

4　飯塚農林事務所管内

■ 農業

・管内では、水田農業での作業の効率化や更なる品質と収量向上を図るため、県のスマート農業推進事業やスマート農業推進強化事業を活用し、農業用ドローンやロボットトラクターといったスマート農業機械 44 台を導入。また、鞍手町の２法人が国の「スマート農業加速化実証プロジェクト」に参加し、現地実証の取組を開始。今後も筑豊地域のスマート農業を推進。

・ＪＡふくおか嘉穂は、水稲・麦の荷受数量の増加に向け、国の事業を活用し、嘉穂カントリーエレベーターの乾燥調製設備の機能を向上。新たな設備は令和２年産麦の荷受から稼働。

・田川地域農業振興協議会は、新型コロナウイルス感染症の影響で消費が低迷した花きの需要喚起のため、「花き消費促進緊急支援対策事業」を活用し、田川地域８市町村の庁舎の飾花を８月と 12 月の２回実施。花きの消費拡大を図る。

・高齢化や後継者不在のため、酪農経営から和牛繁殖経営への転換が増加。搾乳牛舎を育成牛舎へ改修し、県内産肥育もと牛確保を推進。管内の繁殖雌牛頭数は県内一、和牛子牛の主産地に成長。

・福智町伊方地区のほ場整備に向けて、伊方土地改良区が２年 11 月に設立し、３年度から工事着手。農地集積や白ネギをはじめとする高収益作物の導入を推進。

・直方市の貞光孝宏氏が、令和２年度全国優良経営体表彰経営改善部門で全国担い手育成総合支援協議会会長賞を受賞。イチゴ、トルコギキョウ、メロンの雇用型複合経営を実践し、収益性の高い野菜・花き周年生産出荷体制を確立。

地域のトピック

○　６次化商品コンクールで２商品が、管内初の県知事賞を受賞

・令和２年度福岡県６次化商品コンクールにおいて、ほっけじ岡松ぶどう園（直方市）の「ぶどう１１０（いちいちまる）」が農林漁業者部門で、飯塚市農産加工品ブランド化推進協議会の「糸織麺（いおりめん）３種（白色、茜色、炭色）」が事業者部門で、最高賞の県知事賞を受賞。管内での県知事賞受賞は初。また、(株)鳥越ネットワーク（赤村）の「有機完熟トマトケチャップ」が審査員特別賞を受賞。

・「ぶどう１１０」は、無添加でぶどうを煮詰めた商品（ラグー）で、商品の独自性や優れたデザインが評価。

・「糸織麺３種」は、米粉を使用したラーメンで、ギフトに適したデザインや商品の完成度が、「有機完熟トマトケチャップ」は、原料を有機栽培にこだわったことが、それぞれ評価。

受賞商品
（左上：ぶどう 110、右上：トマトケチャップ、下：糸織麺）

■ 林業

・令和元年度から運用が始まった森林経営管理制度の推進に向け、県では、主体となる市町村を対象に「勉強会」や「ドローン活用研修会」を開催。また、市町村による森林所有者への意向調査を支援するため、ふくおか林政アドバイザー制度を活用し、個別指導を実施。この結果、10 市町村が意向調査を実施。

・市町村に交付される森林環境譲与税が有効に活用されるよう、県では市町村を対象に勉強会や個別指導によるきめ細かな支援を実施。この結果、譲与税を活用して森林整備を実施した市町村が、元年の２市町から８市町村へ増加。

・植栽地でのシカの食害は全国的な課題。一方、シカの習性には地域差があり、シカが防止対策の施設そのものを倒すことを学習する事例も発生。２年度は、添田町の植栽現場（1.2ha）において、試験検証で有効であったシカに倒されにくい食害防止筒（植栽した苗木の防護カバー）を設置。

・令和２年７月豪雨により、林道を中心に被害が発生。特に被害の大きかった嘉麻市、添田町、福智町、赤村は早期復旧に向け、林道災害復旧事業を実施。被災した全 18 か所で着手し、うち２か所が完了。

・添田町の森坪清則氏が、日本特用林産振興会の第 33 回特用林産功労者表彰を受賞。菌床しいたけの効率的な生産方法の開発と生産者育成に貢献。

・第７回福岡県木造・木質化建築賞において、嘉麻市役所が木質化の部優秀賞を、認定こども園いなつきれんげ幼稚園（嘉麻市）が奨励賞を受賞。

地域のトピック

○「木育インストラクター養成講座 in ふくおか」で 75 名のインストラクター誕生

・筑豊地区の木材関連事業体の有志で構成される「たんと『木育』ネットワーク」の主催により、「木育インストラクター養成講座※」を直方市で開催。

・県内初の開催で、県も広報活動や運営に参画。県内外から 75 名が受講し、全員が木育インストラクターとして認定。

・受講生からは、「講義がわかりやすく、体験もあり新しい気づきがあった」「保育園での取組に生かしたい」「福岡で毎年開催してほしい」といった声が聞かれ、満足度・理解度も高い評価。

・当講座をきっかけに、木育活動の一般への普及と地域材利用の促進を期待。

※木育インストラクター養成講座：東京おもちゃ美術館が木育の推進を目的として開催し、受講者を木育インストラクターに認定。

保育・教育関係者をはじめ、多様な人材が受講

木育プログラムの体験

５　筑後農林事務所管内

■　農業

・八女市黒木町の城昌史（じょうまさふみ）氏が、第74回全国茶品評会玉露の部で農林水産大臣賞を受賞。八女市は20年連続で産地賞を受賞。

・ＪＡふくおか八女は、かんきつの高糖度ブランド品種「早味かん」や「北原早生」の栽培面積の拡大を契機に、国の事業を活用し、八女市立花町のかんきつ選果場内の貯蔵施設を改修。需要に応じた販売を促進。

・国営事業 有明海東部地区（三池・大和・昭代海岸）では、干拓地への高潮時の越波による農作物への被害や堤防決壊による海水の浸水被害対策のため、14.6kmの堤防改築や排水樋門４か所の補強といった整備を実施。平成５年に着工し、総工費373億円をかけ令和２年度に事業完了。地域住民の生命・財産を守る。

・県営農村総合整備事業 柳川２期地区では、２年度に10路線、延長3.2kmの護岸工事を整備完了。３年度は７路線、延長2.3kmの護岸工事を実施予定。また、大川２期地区では、２年度に水路護岸2.1kmを整備完了。

・県営中山間地域農村活性化総合整備事業 新星野２期地区では、鹿里（ろくり）集落の生活用水の安定的供給を図るため、２年度に営農飲雑用水施設の整備に着手、３年度までに集落内18戸へ供給を目指す。

※営農飲用水施設：育苗、農産物や農業機械の洗浄、園芸作物の栽培などの営農用途に加え、集落の生活用水も担う用水施設。

地域のトピック

○　永野正氣（ながのせいき）氏（みやま市）が農事功績者表彰で紫白綬有功章を受章

・みやま市の永野正氣氏が、令和２年度農事功績者表彰の紫白綬有功章を受章。

・永野氏は、平成22年に緑白綬有功章を受賞されており、その後もみかん栽培での新技術の導入や農業経営の改善に挑戦され、確かな経営を築き上げられてきたとともに、地域のリーダーとして、先駆的技術の導入・普及、産地の形成・発展に大きく貢献。

・今年度の紫白綬有功章は、総裁秋篠宮皇嗣殿下に御高覧いただき、全国で３名が受賞。

紫白綬有功章を受章した永野氏

■ 林業

・福岡県八女森林組合では、市場価格の情報から、最も高く売れる長さや直径で採材できる高性能林業機械を借上げ、その能力を検証。今後も情報通信技術や無人航空機といった新たな技術を使い、木材生産の効率化や省力化に取り組む。

・大径材（直径 30cm 以上）の価値向上に向け、管内の製材事業者と県資源活用研究センターが連携し、大径材から複数の柱を製材する場合の強度や最適な乾燥条件について試験研究を開始。

・大牟田市の農業法人は、農閑期での収益を確保するため、放置竹林の集約化と整備を行い、たけのこ生産を新たに開始。今後は、たけのこ生産希望者と竹林所有者のマッチングを行い、地域のたけのこ生産の拡大を目指す。

・筑後地区森林・林業推進協議会は、八女の林業をＰＲするため、八女材の魅力や林業の現場を紹介する動画を作成。今後、林業事業体のホームページへの掲載や就業相談会で動画を活用。

・柳川市の柳川むつごろうランドにおいて、令和２年 11 月「植樹する百年先の未来へと」をテーマに第 71 回福岡県植樹祭を開催。記念植樹では、小川知事、柳川市長らが、北原白秋の詩にも詠まれたどんぐりの木「マテバシイ」を植栽。

・八女市黒木町で新規の森林管理道「剣持（けんもち）～蚪道（いらど）線」（計画延長 8.6 km、全幅員 4.0m、利用区域 331ha）の開設に着手。２年度は全体計画を策定、10 年度に完成予定。

地域のトピック

○ 販売促進活動や施設整備により菌床きのこの輸出力を強化

・大木町のきのこ生産会社は、需要が少なく価格も安価な夏場の販路拡大を図るため、香港やシンガポールへ「ぶなしめじ」を輸出。

・海外輸出の強化に向け、国庫事業を活用し、香港の地元スーパーへの販路拡大や、新たな輸出国の開拓に向けた販売促進活動、外国語版のホームページ・リーフレットの作成にも取り組む。

・併せて、きのこ用 LED ライト、自動収穫機の施設整備により、品質の向上と省力化を図り、輸出額の増加と生産性の向上を目指す。

香港での販売促進会

輸出用のパッケージ

６　行橋農林事務所管内

■ 農業

・京築地域農業・農村活性化協議会※では、京築普及指導センターと生産者が連携し、いちごの新規栽培者の早期技術の習得に向け、「あまおう栽培の手引き（京築版）」を策定。熟練農家が栽培開始時に知りたかったことや疑問に感じたことを掲載。新規栽培者のみならず、既に取り組んでいる生産者にも配布。さらなる収量向上につながると好評。

・ＪＡ福岡京築の新田原果樹部会では、樹園地の賃借料決定の参考として樹園地賃借料の評価基準を作成。生産条件（自然条件、土壌条件、作業条件）や樹体条件などを考慮。今後、利用権設定時に活用。

・ＪＡ福岡京築スイートコーン部会は、新型コロナウイルス感染症の影響による地元イベントの中止により、貴重なＰＲ販売の機会を喪失。一方、30 年以上にわたる全国に向けたゆうパック宅配事業や生協取引、直売所といった長年の安定した販路への販売や、地域内外の関係機関の協力もあり前年並みの販売量を達成。さらなる販路確保に期待。

・福岡県茶生産組合連合会行橋支部は、県立求菩提資料館と連携し、「求菩提に伝わった茶とその未来」と銘打った企画展を開催。資料館内で京築地域のお茶を販売。関連イベントの「ぶぜん里山お茶めぐり」では、地元飲食店を中心に、お茶を取り入れたメニューや体験プログラムで、お茶の魅力を発信。

・豊前市の豊前ニューツーリズム協議会では、令和２年度より県の「魅力あふれる農泊推進事業」を活用し、農泊を核とした受け入れ態勢の充実を図る。上毛町や築上町の農泊実践グループとの連携も進め、農泊紹介のパンフレットを作成。新たな誘客に取り組む。

※京築地域農業・農村活性化協議会：京築地域の農業・農村の活性化を目的に、２市５町、農業団体、県関係機関で構成。

地域のトピック

○有限会社田中農産（築上町）が全国麦作共励会で農林水産大臣賞を受賞

・築上町の有限会社田中農産が、令和２年度全国麦作共励会において、農林水産大臣賞を受賞。

・麦作を収益の柱に置き、徹底した排水対策により播種、中間管理、収穫作業を適期に実施し、毎年管内トップレベルの収量及び品質を達成。

・また、もち麦品種「くすもち二条」の生産拡大や、高品質の栽培技術も確立。「くすもち二条」は、品種開発から九州沖縄農業研究センターと連携し、現在は原種・種子生産にも取り組み、高収益を確保。

農林水産大臣賞を受賞した田中農産

■　林業

・新規林道「豊前耶馬溪線」（延長5,100m、幅員４m、利用区域211ha）の整備計画を大分県と連携して策定。令和３年度から10か年で整備し、完成後は安定的な木材生産や災害時の代替路としての機能の発揮に期待。

・県では、林業現場での労働災害の防止を目的に、福岡労働局をはじめ関係機関と合同で、伐出現場の安全パトロールを実施。加えて行橋農林独自で、行橋労働基準監督署と合同安全パトロールを重ねて実施。今後、労働災害ゼロを目指す。

・製紙会社が、福岡・大川家具工業会と共催で、豊前市海岸部の社有地において、早生樹センダンの植樹祭を開催（京築地区森林・林業推進協議会協力）。当管内で２回目となる今回は、地元小学生が参加し、20年後に想いを馳せながら、苗木150本を植樹。

・京都森林研究グループは、行橋高校環境緑地科２年生を対象に、みやこ町内の学校林で、林業体験学習（チェーンソー操作）を開催。今回で８回目となり、これまでの受講生の中から林業就業者も誕生。

・「京築のヒノキと暮らすプロジェクト（ちくらす）※」の取組の一環として、平成筑豊鉄道「美夜古泉（みやこいずみ）駅」駅舎の内外装を地域材による木質化。今回は、駅を利用する地元高校生も、木材の加工や取付作業に参加。「ちくらす」の取組は、従来からの地元大学と連携した商品開発に加え、地域材を使った駅舎木質化や、ワンルームマンション・店舗の内装木質化まで、その取組が拡大。

※京築のヒノキと暮らすプロジェクト（ちくらす）：平成 27 年度から京築地区森林・林業推進協議会と京築・北九州の大学で連携し、京築ヒノキのブランド化と需要拡大を図るため、京築ヒノキの新たな活用方法を提案する活動。

地域のトピック

○木材輸出拡大へ県境を越え連携開始

・福岡県京築地域と大分県北部地域の森林組合や木材市場、木材商社、行政が連携し、令和２年９月に、原木の中国向け輸出を促進する協議会（事務局：行橋農林事務所）を設立。３年度から連携輸出を開始。

・県境を越え隣接する地域の関係者が連携して、輸出用丸太のロットを確保することで、取引価格向上や将来に渡る安定的な供給先の確保を目指す。

木材輸出拡大協議会

輸出材の状況（中津港）